

氏名	春 名 完 二
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 3 7 号
学位授与の日付	昭和37年12月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	Fate of some Sedatives in the Animal Body. I. α -Bromoisovalerylurea (Bromural)
論文審査委員	教授 水原舜爾 教授 山崎英正 教授 小坂淳夫

学 位 論 文 内 容 要 旨

従来鎮静剤としてしばしば用いられているプロムラルの生体内運命に関しては正確なことが知られていなかったが、著者はプロムラルを人間に投与すると尿中に未知アミノ酸のあらわれることを発見し、このアミノ酸を結晶状に分離し、その化学構造を S-(isopropyl-Carboxymethyl) Cysteine と決定した。即ちプロムラルは生体内で Cysteine と結合して排泄されることを明らかにした。

備考 J. Biochem., 49, 388 (1961) に掲載済

論文審査の結果の要旨

春名完二提出の「Fate of Some Sedatives in the Animal Body. I. α -Bromoisovalerylurea (Bromural) に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

有機ハロゲン化合物が生体内でシステインと結合し解毒されることはよく知られているが、臨床的に鎮静剤としてよく用いられるブロムラールが生体内でどのような変化をうけるかについては現在迄全く不明であった。春名はこの点に着眼しブロムラールを人体に投与し、その尿中に未知アミノ酸のあらわれることを発見し、このアミノ酸を結晶状に分離し、その化学構造を S-(isopropyl-Carboxymethyl)-Cysteinil と決定した。この事実からブロムラールは生体内でその分子内のブロームと尿素が分解し、システインと結合して排泄されることが明らかとなった。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せらるべき学力を有すると認める。